

ひととき

日本地下水開発創業者
桂木 公平 さん 85

地下水、地熱 「地球の恵み」

今年3月中旬に井戸掘りのボランティアで行った宮城県南三陸町。わき出てきた水を囲むようにして、被災者は「ありがたい」と手を合わせていた。

この光景を見て、思わず、55年前の米沢市の荒野がよみがえった。大陸から引き揚げてきた人たちが、掘って立て小屋で、貧しい生活を続けていた。乾いた田畑をむなしく耕す農家の男性は、「水さえあれば、生活できるのになあ」と、空を見上げた。

京都大工学部を卒業後、28歳で山形市長に招かれ来県。農村部を見学していた時、この男性に出会った。何気ない彼のつぶやきが、その後の道

を決めた。井戸を掘れば簡単だと、何度も県庁にかけ合ったが、「前例がないから」と取り合って



「地熱エネルギーにもっと注目してほしい」と桂木さん

もらえなかった。何とか国からの補助を得て、機械を準備し、男性の庭先で井戸を掘り始めた。

泥まみれになって60日後、約80メートルの深さに達した時、水が噴き出した。数年後、一帯は豊かな農村に変わっていた。こんな風に、あちこちの村が元気になった。

1962年に、井戸掘りなどを行う会社を設立。地表で見えるものではなく、地下水と地熱、温泉の魅力にとりつかれた。

大石田町、真室川町、村山市、山辺町……。約20年前まで、温泉がなかった市町村でも、温泉を掘削し、「全市町村に温泉がある山形県」の立役者になった。

地熱で温められた地下水を地表近くに流し、融雪する「無散水消雪システム」の発明者

でもある。「雪も雨も、やがて一部は地下水に姿を変え、から、宝物みたいに見えるよ」今回の震災で、原発事故の

報道に接する度に、地熱や地下水の可能性に気づかされる。「地下深くなればなるほど、地熱は自然と高くなる。『地球からの恵み』を使わない手はない」と力を込めた。

(影本菜穂子)

かつらぎ・こうへい 1926年、大阪市生まれ。山形市在住。日本地下水開発(山形市)を設立し、現在も会長を務める。全国で掘り当てた温泉は169か所に上り、失敗したのは、わずか6か所。学生時代からサッカー好きで、県サッカー協会の会長を務め、今でも、ときどき試合に出場する。